

スペシャルコース (約13km)

START 難波宮跡公園 → 1 史跡難波宮跡 → 2 大村益次郎殉難碑 → 3 高津宮 → 4 生國魂神社 → 5 四天王寺 → 6 摂津国分寺跡 → 7 堂ヶ芝廃寺 → 8 真田山公園 → 9 三光神社 → 10 玉造稲荷神社 → 11 鶴森宮 (森之宮神社) → 12 大阪城天守閣 → 13 大阪城豊臣石垣館 → 14 タイムカプセル EXPO'70 → 15 なノにわ → 16 大阪歴史博物館 → GOAL 難波宮跡公園

ファミリーコース (約9 km)

START 難波宮跡公園 → 1 史跡難波宮跡 → 2 大村益次郎殉難碑 → 3 高津宮 → 8 真田山公園 → 9 三光神社 → 10 玉造稲荷神社 → 11 鶴森宮 (森之宮神社) → 12 大阪城天守閣 → 13 大阪城豊臣石垣館 → 14 タイムカプセル EXPO'70 → 15 なノにわ → 16 大阪歴史博物館 → GOAL 難波宮跡公園



KANSAI ウォーク 2025

6月29日 日

第1回大会 大阪・難波宮エリア

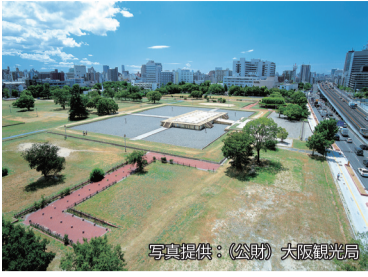
前期 遷都…645年 後期 遷都…744年

【コース監修】北川 央
(九度山・真田ミュージアム名誉館長)

★MAP上の二次元コードでGoogle MAP
をご覧ください。

★コース上の寺院・神社へおまいりされ
ない方は、境内に入らず前をお通りく
ださい。

1. 史跡難波宮跡



写真提供：(公財)大阪観光局

飛鳥時代(7世紀)から奈良時代(8世紀)にかけて、上町台地北端の地に、前期と後期の2期の難波宮が造営された。前期難波宮は、「大化改新」による難波遷都で造営された「難波長柄豊碇宮」で、我が国で最初の本格的な中国風の宮殿となった。後期難波宮は、奈良時代の神亀3年(726)から聖武天皇の命令で造営された宮殿である。天平16年(744)には一時期首都となった。昭和36年(1961)、当時、元大阪市立大学教授であった山根徳太郎博士の発掘調査により確認された。

2. 大村益次郎殉難碑



写真提供：(公財)大阪観光局

大村益次郎は周防国(山口県)出身の医者で、はじめ村田蔵六と名乗った。適塾で医学・蘭学を学び、わずか1年で塾頭になった。次第に兵学に傾倒し、万延元年(1860)には請われて長州藩の兵制改革にあたり、第二次長州戦争から戊辰戦争にいたるまで長州藩の軍事指揮官として活躍した。維新後には新政府の兵部大輔となり、近代軍制の制定に尽力したが、明治2年(1869)京都で不平士族に襲われて重傷を負い、この碑から南850mにあった浪華病院で手術を受けたものの、敗血症を起こし亡くなった。

3. 高津宮



写真提供：(公財)大阪観光局

仁徳天皇を主祭神とする神社。仁徳天皇は難波高津宮で政治を行ない、高殿に昇って見渡したところ、人家の炊煙の乏しいのを嘆き、諸税を止めるなど仁政を敷いたと伝えられる。神社は、貞観8年(866)勅命により難波高津宮の跡を探検して社地を定め社殿を建てたのが始まりとされる。当初は現在の大阪城の地に鎮座したといい、その後、現在の東高津宮(大阪市天王寺区東高津町)の場所を経て、天正11年(1583)の豊臣秀吉による大坂城の築城にともない、現社地に遷座したと伝えられる。

4. 生國魂神社



写真提供：(公財)大阪観光局

生島大神・足島大神を祀る神社で、生島大神・足島大神とは「大八洲国」と呼ばれた我が日本の国土を構成する島々の霊魂、すなわち「國魂」を意味する。生島大神・足島大神は宮中でも祀られた。かつては難波宮、大坂(石山)本願寺、大坂城の近傍に鎮座したが、慶長3年(1598)豊臣秀吉が最晩年に行なった大坂城の拡張工事で、現在の社地に遷座した。大阪を代表する神社で「難波大社」と称される。明治維新による神仏分離までは神宮寺の法案寺があり、別当南坊以下、医王院・観音院など支院十ヶ寺を擁し、俗に「生玉十坊」と呼ばれた。

7. 堂ヶ芝廃寺



JR 桃谷駅に近い豊川稲荷別院 観音寺の周辺からは、古代の瓦片が多数出土し、飛鳥時代の寺院跡と推定されている。渡来人の百済王家の氏寺「百済寺」の跡

ではないかと考えられている。朝鮮半島南西部にあった百済王朝は、新羅との戦いに敗れて、660年に滅亡。日本は百済の復興を支援し、663年、連合軍を組んで唐・新羅の連合軍と戦ったが、大敗を喫した(白村江の戦い)。百済王家は日本に亡命し、現在の大阪市東成区・生野区・天王寺区・東住吉区・平野区などにまたがる一帯の土地を与えられ、百済の遺民とともに住み、「百済王」をウジナ(氏)とした。「百済寺」はこの百済王家の氏寺で、「百済尼寺」の方は付近の細工谷遺跡にあったと考えられている。同遺跡からは「百済尼」「百尼寺」の墨書のある土器が出土している。百済寺はその後、河内国交野に移り、枚方市中宮西之町にある百済寺跡は国の特別史跡に指定されている。

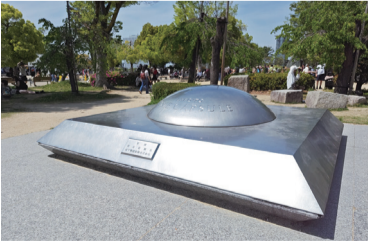
11. 鵲森宮(森之宮神社)



聖徳太子創建と伝える神社。祭神は聖徳太子の父である用明天皇、母である穴穂部間人皇后、聖徳太子である。社名である鵲森宮(かささぎのみや)

は、推古天皇の時代、聖徳太子の命により朝鮮半島の新羅に渡った使者が帰国した際に鵲(かささぎ)を二羽献上。この森で飼われた事に由来するという。本願寺8世の蓮如上人が、かつてこの神社の境内にあった松の木の下に座し、宗門の繁栄を祈って、現在の大阪城の場所に大坂(石山)御坊を建立したと伝える。この松は「蓮如松」と呼ばれたが、既に枯死し、今はない。一般には略して「森之宮神社」と呼ばれている。

14. タイムカプセル EXPO '70



「人類の進歩と調和」をテーマとした日本万国博覧会(万博)が昭和45年(1970)に大阪で開催されたのを記念して毎日新聞社と松下電機産業株式会社(現Panasonic)が同じ内容のカプセル2個を製作し、20世紀の文化所産2098点を収納して、大阪城本丸の地下に埋設した。一個は地下7~9メートル辺り、もう一個は11~15メートル辺りに埋納され、上部のものは毎世紀初頭に開封され、下部のものは1970年から数えて5000年後の6970年に開封されることになっている。上部のものは2000年3月に最初の開封が行なわれた。

を記念して毎日新聞社と松下電機産業株式会社(現Panasonic)が同じ内容のカプセル2個を製作し、20世紀の文化所産2098点を収納して、大阪城本丸の地下に埋設した。一個は地下7~9メートル辺り、もう一個は11~15メートル辺りに埋納され、上部のものは毎世紀初頭に開封され、下部のものは1970年から数えて5000年後の6970年に開封されることになっている。上部のものは2000年3月に最初の開封が行なわれた。

5. 四天王寺



写真提供：(公財)大阪観光局

百済の聖明王からもたらされた仏教を信じるか否かで、蘇我氏と物部氏の間に対立が生じ、用明天皇3年(587)にはついに武力衝突へと発展した。この戦いで、聖徳太子は崇仏派の蘇我方の一員として参加し、自ら四天王像を刻んで戦勝を祈願したと伝える。戦いは蘇我方の勝利に終わり、感謝した聖徳太子は推古天皇元年(593)に四天王寺を創建したと伝えられる。南大門から中門・五重塔・金堂・講堂が南北一直線に並び伽藍配置は「四天王寺式伽藍配置」と呼ばれる。平安時代後期以降は浄土信仰の聖地として多くの人々が参詣するようになり、西門の石鳥居には、ここが極楽浄土の東の入り口であることを意味する「釈迦如来 転法輪所 当極楽土 東門中心」の扁額が掲げられている。

8. 真田山公園



写真提供：(公財)大阪観光局

昭和14年(1939)、堺に移転した陸軍の騎兵隊四連隊の跡地に開設。真田山公園は、スポーツセンター(屋内・奥外プール、アイススケート場)、テニスコート4面、野球場1面などを擁しており、市街地におけるスポーツの拠点となっている。

9. 三光神社



写真提供：(公財)大阪観光局

もとは姫山神社と称し、真田山稲荷、宰相山稲荷とも呼ばれた。その境内末社として、陸奥国宮城郡青麻(宮城県仙台市宮城野区)から三光宮(青麻神社)の分霊を勧請し、中風除けの信仰を集めた。明治41年(1908)、現在の社号「三光神社」に改めた。境内は、大坂冬の陣に際して、真田幸村が築いた「真田丸」(真田出丸)の故地と伝えられ、幸村が大坂城内との連絡用に掘らせたと伝えられる伝説の「真田の抜穴」が残る。昭和62年(1987)には、鹿角の兜を被り采配を振るう幸村の銅像が建てられた。

12. 大阪城天守閣



写真提供：(公財)大阪観光局

大坂城は、豊臣秀吉が天下統一の拠点として、天正11年(1583)に築城工事をスタートさせた。工事は四期に及び、難攻不落の壮大な城郭が完成したが、秀吉亡き後、慶長20年(1615)5月7日、大坂夏の陣で落城。その後、徳川幕府によって再築され、幕府の西国支配の拠点となる。現在残されている石垣や櫓は全て江戸時代のもの。寛文5年(1665)落雷により天守を焼失。以後、天守は再建されなかったが、昭和6年(1931)に全額大阪市民の寄付金で現在の天守閣が復興された。内部は、豊臣秀吉が活躍した時代と大阪城の歴史に関する博物館となっている。

15. なノにわ



大化元年(645)、乙巳(いつし)の変で蘇我氏が滅亡し、孝徳天皇が即位。

「大化改新」と呼ばれる政治改革が始まり、都は飛鳥から難波に遷された。中央大通・阪神高速13号東大阪線より北側は、かつて天皇が暮らし、政務を行った空間「内裏」と考えられ、「なノにわ」になっている場所からは内裏の遺構が見つかった。令和7年(2025)3月28日、「みんなのにな」をコンセプトに、広大な芝生広場と13の飲食店が入る商業施設「なノにわ」がオープンした。

16. 大阪歴史博物館



写真提供：(公財)大阪観光局

1400年近い大阪の歴史と文化を研究・紹介する博物館として平成13年(2001)、難波宮跡公園に隣接して開館した。古代から近代現代にいたる都市大阪の歴史を紹介する体験型博物館で、考古・歴史・民俗・美術・建築・芸能の様々な分野の文化財を収集・保管している。また地下に難波宮の遺構を保存・公開している。

6. 摂津国分寺跡



写真提供：(公財)大阪観光局

聖武天皇は、天平13年(741)に「国分寺建立の詔」を発し、奈良東大寺を総国分寺、法華(ほっけ)寺を総国分尼寺とし、全国に国分寺・国分尼寺を置くことを宣した。宝亀年間(770~781)には概ね全国に国分寺・国分尼寺が造立された。摂津国分寺については、ほとんど知られることがなかったが、この付近から奈良時代の蓮華文(れんげもん)や唐草文軒瓦(からくさもののきがわら)が出土し、国分寺跡と推定されている。

10. 玉造稲荷神社

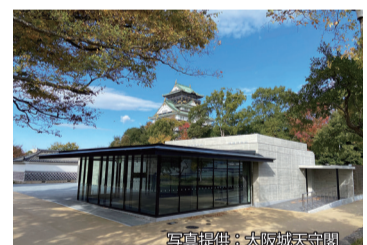


写真提供：(公財)大阪観光局

神社周辺一帯は、勾玉・管玉などを作り、大和朝廷に奉仕した古代の玉造部(玉作部)の居住地と伝承され、神社境内に古代玉造部に関する資料を展示する「難波・玉造資料館」が開設されている。豊臣秀吉が大坂城を築いてからは、その鎮守社として豊臣家から篤い崇敬を受け、境内には豊臣秀頼が社殿を復興した際の慶長8年(1603)吉日銘の石鳥居や秀頼が生まれた際の胞衣を祀る胞衣塚大明神があり、平成23年(2011)には秀頼の銅像も建てられた。付近には千利休や前田利家、宇喜多秀家、細川忠興、小出秀政ら豊臣政権下の有力大名の屋敷が存在した。

玉造部(玉作部)の居住地と伝承され、神社境内に古代玉造部に関する資料を展示する「難波・玉造資料館」が開設されている。豊臣秀吉が大坂城を築いてからは、その鎮守社として豊臣家から篤い崇敬を受け、境内には豊臣秀頼が社殿を復興した際の慶長8年(1603)吉日銘の石鳥居や秀頼が生まれた際の胞衣を祀る胞衣塚大明神があり、平成23年(2011)には秀頼の銅像も建てられた。付近には千利休や前田利家、宇喜多秀家、細川忠興、小出秀政ら豊臣政権下の有力大名の屋敷が存在した。

13. 大阪城豊臣石垣館



写真提供：大阪城天守閣

令和7年(2025)4月新たに開館したミュージアム。現在の大阪城の石垣はすべて徳川幕府によって再築されたもので、豊臣秀吉築造の石垣は徳川幕府による再築工事で地下深くに埋められた。秀吉築造の大坂城の石垣は、昭和34年(1959)に行われた「大坂城総合学術調査」で発見されたが、当時はまだ、大坂(石山)本願寺のものである可能性も残されていたため、「謎の石垣」と呼ばれた。ところが、翌昭和35年(1960)に、徳川幕府の大工頭を務めた中井家から「豊臣大坂城本丸図」が見つかり、その後の調査で確認された地下の石垣もこの絵図と一致したことから、秀吉築造の石垣と確定した。大阪城豊臣石垣館では、昭和59年(1984)に発見された「詰ノ丸」の一角の石垣が公開されている。「詰ノ丸」は、秀吉が家族とともに暮らした空間。

大会途中で棄権したり、救護を要する時は…

大会本部 (Central Site) 救護 (First Aid)

TEL 080-8506-5200

この電話は大会当日のみ有効です

主催 産経新聞社

特別協賛 今日と愛する。

LION

協力 (特非) 関西シティプロモーション スーパースポーツゼビオ

企画運営 (株)ムーヴ エンタテインメント事業部

全大会後援 歴史街道推進協議会

第1回大会後援 大阪府、大阪市、大阪市教育局 大阪商工会議所、(公財)大阪観光局